

二〇二二年七月一七日(参加者一三名)

|                 |     |
|-----------------|-----|
| 片陰にひしめく顔や鉾進む    | せいじ |
| 回るたび鉾大空をかき回す    | "   |
| 総身の汗を散らして鉾回す    | "   |
| 人波に埋もれて仰ぐ鉾高し    | "   |
| 池渡る風に蒲の穂さんざめく   | ひかり |
| 梅雨明けや目に触るるもの皆光る | "   |
| 四阿の人影を恋ふ錦鯉      | "   |
| 緑陰は子連れのママの集会所   | "   |
| 祖父の世のなほ健在や扇風機   | うつぎ |
| 七月の水琴窟はロック調     | "   |
| 濃紫陽花足下を埋むリフトかな  | "   |
| 合歓咲くや若狭仏に見ゆ道    | "   |
| たたなづく翠微まぶしき梅雨の晴 | よし子 |
| 清盛の謂れの海や雲の峰     | "   |
| 青田風切って走りぬ一両車    | "   |
| わんぱくら清水濁して駈けだしぬ | "   |
| 雲の峰より一筋の飛行雲     | ぼんこ |
| 炎昼や貨物列車の長きこと    | "   |

蓮浮葉風に抗ひ裏返る

飛石を洗ふ瀬音の楽涼し

一陣の風に波打つ蓮浮葉

雲の峰六甲連山従へて

夕焼を掬ひ掬ひて観覧車

滴りや顔に苔むす磨崖仏

草花紋青き白磁の涼しさよ

連れ立ちてマイセン展へ白日傘

館涼しマイセン磁器の変遷を

川に沿ふ櫂並木の影涼し

朝涼やテーブルクロスは伊勢木綿

せせらぎを辿りて汗の心地よき

マイセンの贅極めたる夏館

定例会の選

二〇二二年七月一七日(参加者一三名)

"

わかば

"

"

宏虎

"

菜々

"

はく子

"

有香

百合

満天